

C

私たちの仕事は、特別な日を創ることです

ERESPO NEWS

vol. **115**
2019 July



みんながって
みんないい

W.O.W.O.W WHO I AM PROJECT PRESENTS

ユニバーサルスポーツイベント

ノーバリアゲームズ

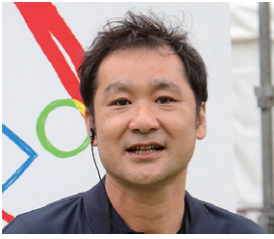
セレスポ陸上部NEWS

REPORT

これからのスタンダードとなるべきイベントをお手伝いさせていただきました!

ノーバリアゲームズでは、競技に係る造作・運営と進行補助、会場装飾をお手伝いさせていただきました。「障害のある方、健常者、性別、年齢問わずすべての方が等しく楽しめる大会作り」というテーマがありましたので、主催者さまのイメージを形にすることがかなり注力させていただきました。オリジナルの競技だったので安全面にも配慮しながらのご提案をさせていただいたり、今回日比谷音楽祭とのコラボレーション企画という事で、2つのイベントがポジティブに作用するように、何度も打合せを重ねて、当日を迎えました。

アスリートたちと一般参加者の距離感が非常に近く、競技を終える毎に増していく結束力や一体感は見えてとてもすがすがしいものでした。積極的にコミュニケーションをとりながら、みんなが1つになって楽しめる、というイベントの醍醐味が体現されていたと感じています。これからのスタンダードを目指して、個人としてもセレスポとしても、その一助を担っていきたいと思いました。



佐野 智也 さんのともや
株式会社セレスポ 東京支店



ノーバリア宣言パネル

参加者全員が今日の目標を書いてボードへ。大きなパネルが完成しました。



EVENT DATA

ノーバリアゲームズ 2019年6月1日
 【開催地】日比谷公園 (東京都千代田区)
 【主催】株式会社WOWOW
 【WHO I AM プロジェクト】、日比谷音楽祭実行委員会



太田 慎也さん
株式会社WOWOW 制作局 制作部



「WHO I AM」とは?

WOWOWと国際パラリンピック委員会 (IPC) の共同プロジェクトとして、リオパラリンピックが開催された2016年から、東京パラリンピックが開催される2020年まで、5年にわたり世界最高峰のパラアスリートに迫るパラリンピック・ドキュメンタリーシリーズ。8/24 (土) よりシーズン4の放送がスタートする。

「勝ったかった」と涙する男の子もいました。勝ち負けが全てではないけれど、本気で勝ちたいという気持ちが参加者全員に芽生えていたと思います。

セレスポさんは、運営面でのリスクヘッジをとっても考えていただきました。色々と要望を言わせていただきましたが、サポートのおかげで実現できましたし、あれだけ競技が盛り上がった状況の中でも、怪我もなく終了することができました。例え転んでしまったとしても、本人がやりたいと思ったことをやっていた。もっと自由でいいのだと気づきました。そういう気持ちで参加できる環境や雰囲気醸成していくことを大切にしていきたいです。

これからのノーバリアゲームズ構想を教えてください。

今後のことは何も決まっていますが、私の気持ちとしては、1回で終わらせたくはなかったし、終

夢の空間を作りたいだったので、みんなが終始笑顔だったことが答えです。初開催ということで当然不安がありましたが、今は、勇気をだしてやってよかった、そんな気持ちでいっぱいです。このイベントは、WOWOWとIPC (国際パラリンピック委員会) が共同プロジェクトとして展開しているパラリンピック・ドキュメンタリーシリーズ「WHO I AM」の取材でイタリアのベアトリーチェ・ヴィオ選手に密着した時に開催されていた、彼女の両親が主催するスポーツイベントに着想を得ています。日本での開催にあたっては、イタリアのイベントと同様参加者の気持ちをとって大事にして開催しました。

こういった障がい者と健常者が一緒にいかにやるイベントは、どうしても「やる」ことに意義を見いだしがちになりますが、今回はあらゆる垣根を越えて、参加者みんなが「勝ちたい」という気持ちで参加してくれました。パラアスリートゲストの木村敬一選手は、「今日は、本当にノーバリア。勝つことだけを考えてガチでやりました(笑)」森井大輝選手は、「こういうイベントは、障がい者が手加減したり、健常者が遠慮したりと、どこか本気になれない部分がありますが、今日はそれがなかった」と言ってくれましたし、閉会式で

「このイベントは、パラスポーツの体験会でもなければ、ただの運動会でもない。みんなの気持ちが1つになった、これからのスタンダードになるべきイベントだと感じています。事前打ち合わせの時に、松岡修造さんから「手加減もしないし遠慮もしない、全員が本気でやるべきだ。本気でやれば絶対成功する」と言われたことが強く残っています。アスリートも参加者も障害がある方がなからうが勝つために全力で楽しめる特別なイベントとして展開を続けていき、いつしか当たり前前のイベントとして定着してくれればいいと考えています。



作戦会議が大切!

みんなで描こう ~スタンプ押しリレー~

2名1組でスタートし、コース先のボードにスタンプを押して戻る競技。スタンプを押す位置が決まっているのでどこに押すかが大切です。



みんなで運ぼう ~ボール運び競争~

チームで協力してレールをうまく使いながらゴールまで運んでいく競技。落とさないようなチームワークが重要。



みんなで集まろう ~ひとつのプールに全員集合~

水風船や水鉄砲の妨害をくぐりぬけ、レーン奥のプールを目指して駆け抜ける競技。みんなずぶぬれになりながら走り抜けます。



みんなで割ろう ~風船割り障害物リレー~

2名1組で障害物乗り越えながら、コースの先にある風船を割って戻ってくるリレー。相手のことを考えながら進むのがポイント。



ゴールまであと少し!

ユニバーサルスポーツイベント ノーバリアゲームズ

2019年6月1日に日比谷公園(東京都千代田区)にて、ノーバリアゲームズが開催されました。あらゆるバリアを超え、たチームとなってスポーツを行うこのイベント。今回は、主催の株式会社WOWOW 太田慎也さんにお話を伺いました。

「ノーバリアゲームズについてお伺いできますか?」
 ノーバリアゲームズは「みんなちがって、みんないい」をテーマにして、年齢や性別、国籍、障害の有無などを問わない多様な参加者たちが、スポーツの楽しさを感じながら、みんなで体を動かすことのできるユニバーサルなスポーツイベントです。

MCには松岡修造さん、スペシャルゲストには車いすバスケットボールカナダチームの金メダリストであるパトリック・アンダーソン選手、他にも多くのゲストをお迎えしました。ゲストと参加者が4チームに分かれ、4つの種目で得点を競い合いました。競技は、今回のイベントのために全てオリジナルで用意しました。障がい者と健常者がペアになった障害物レースや、水風船や水鉄砲を使った相手チームの妨害から身を守りながらゴールを目指す競技など、どれも一緒に楽しめるものです。全てが初めてだったので、当日ほとんどの方が初対面であつたにも関わらず、立場や経験を超えて作戦会議をしたり円陣を組んだりする姿が見られました。競技が始まると毎回順位が入れ替わる白熱した展開となり、参加者の皆さんは転んでびしょ濡れになりながらも、みんなが笑顔で、とてもポジティブな雰囲気、真剣に競技を楽しんでいただけました。

「イベントが終了して、どのようなお気持ちでしょうか?」

「夢の空間を作りたいだったので、みんなが終始笑顔だったことが答えです。初開催ということで当然不安がありましたが、今は、勇気をだしてやってよかった、そんな気持ちでいっぱいです。このイベントは、WOWOWとIPC (国際パラリンピック委員会) が共同プロジェクトとして展開しているパラリンピック・ドキュメンタリーシリーズ「WHO I AM」の取材でイタリアのベアトリーチェ・ヴィオ選手に密着した時に開催されていた、彼女の両親が主催するスポーツイベントに着想を得ています。日本での開催にあたっては、イタリアのイベントと同様参加者の気持ちをとって大事にして開催しました。

こういった障がい者と健常者が一緒にいかにやるイベントは、どうしても「やる」ことに意義を見いだしがちになりますが、今回はあらゆる垣根を越えて、参加者みんなが「勝ちたい」という気持ちで参加してくれました。パラアスリートゲストの木村敬一選手は、「今日は、本当にノーバリア。勝つことだけを考えてガチでやりました(笑)」森井大輝選手は、「こういうイベントは、障がい者が手加減したり、健常者が遠慮したりと、どこか本気になれない部分がありますが、今日はそれがなかった」と言ってくれましたし、閉会式で





セレスポ陸上部 News

■ 第103回 日本陸上競技選手権大会

中村 真悠子 女子2000mSC予選/10.32.47 7着
白石 黄良々 男子100m準決勝/10.33 (+0.2) 5着
 男子200m決勝/20.80 (-1.3) 4着

■ ダイヤモンドリーグ ロンドン大会

白石 黄良々 4×100mリレー 日本代表として出場
 (1走 多田修平/2走 小池祐貴/3走 桐生祥秀/4走 白石黄良々)
 /37.78 **2位**

ダイヤモンドリーグは
 IAAF (国際陸連) が
 主催する世界最高峰の
 リーグ戦!!

[写真協力]
 左/Rahul Pawar
 右上・右下/©フォート・キシモ

編集後記

今回特集したノーバリアゲームズは、さまざまな垣根を越えて全員が1つになることができたスポーツフェスティバルです。イベント終了後には、「また来年もやりたい」「次は勝ちたい」との声も多く聞こえてきて、みんなで楽しんで、真剣になれるイベントだったのだと感じさせられました。これからのスタンダードなイベントの概念として繋がってほしいですね。

太陽の光を感じる機会が少なかったような気がする7月でしたが、イベントが開催される夏がやってきます。暑さ対策をしっかりと楽しんで夏を過ごしましょう!

中村真悠子選手 引退のお知らせ

今まで応援
 ありがとう
 ございました



2015年よりセレスポ陸上部で3000mSCの選手として活躍していた中村 真悠子が、引退することとなりました。選手としてだけでなく、多くの人に陸上や身体を動かすことの楽しさを知ってもらいたいと社内外で積極的な活動に尽力いただきました。これからもセレスポの社員として、ひきつづきさまざまな活動をおこなってまいります。長い間、応援ありがとうございました!

日頃の応援してくださる皆様へ
 セレスポ 陸上部の中村真悠子です。

2019年6月27日の日本陸上競技選手権大会を最後に
 陸上競技を引退する決断をいたしました。

陸上競技を始めて16年間、多くの人と出会い交わられ
 この日を迎えることができました。

これまで応援し支えてくださった方々への感謝の気持ちを
 胸に、新たなスタートを切りたいと思います。

応援 ありがとうございました。

これからもセレスポ陸上部の温かい声援をお願いします!

中村真悠子



[発行日] 2019年7月25日
 [発行元] 株式会社セレスポ
 〒170-0004
 東京都豊島区北大塚1-21-5(本社)
 TEL/03-5974-1111
<http://www.cerespo.co.jp/>

[デザイン] META+MANIERA

CERESPO NEWSに関する
 お問い合わせは
 株式会社セレスポ
 コーポレートデザイン室
 (cd@cerespo.co.jp)まで

Facebookはこちら! ▶▶▶▶

